

## 平成25年度第3回廃棄物減量等推進審議会議事録

期日：平成26年2月14日（金）

場所：多治見市役所5階第1会議室

出席委員：伊藤会長、加藤（彰）委員、田中委員、坂崎委員、井深委員、山田委員、奥村委員

欠席委員：加藤（誠）副会長、安藤委員、新山委員、中島委員

事務局：水野環境文化部長、岡田環境文化部次長、伊藤環境課長  
市川課長代理、田中主査、原主査

### 議題

- ① 生ごみ処理容器及び生ごみ処理機の普及策について
- ② 平成26年度一般廃棄物処理実施計画の策定について
- ③ 多治見市ボランティア袋作製について（報告）
- ④ その他

#### 1 開会挨拶

環境文化部長挨拶

#### 2 議題

##### 議題①

（生ごみ処理容器及び生ごみ処理機の普及策について、資料に基づき事務局より説明）

**概要：**今までの審議会での意見やアンケートの結果をふまえ、生ごみ減量策の一つの方策である生ごみ処理容器等の普及策について、ご意見を伺いたい。

**結論：**本日いただいた意見を参考に来年度も引き続き、生ごみ減量に取り組む。

##### 主な意見

- ・生ごみ処理容器等の利用者の年代はどれくらいか。  
→アンケートの結果から、現在60代から70代の方が多い。
- ・若い世代は生ごみ処理容器等の購入について、消極的なのか。  
→生ごみ処理容器については、堆肥化を目的とし、家庭菜園に利用する方が多く、一戸建ての方（庭がある方）が多いため、年齢層も高いと思われる。処理機については、家の中で使用できるものもあるが、堆肥として利用しようとする、若い世代の方が多いと思われる集合住宅の方は、消極的になるのかもしれない。
- ・現在、エコクッキングを年1回実施されているが、実施回数を増やし、ごみを出さない、

材料をできる限り使い切るといった意識付けをしたらどうか。

→エコクッキングは、回数を増やしても、参加者数はそれほど多くならないことから、広報紙やホームページなどで、エコクッキングを広く PR していきたい。

・生ごみ以外に、衛生面の関係から、紙ごみも増えているし、手袋も使い捨てになっている。(布巾を使用せず、キッチンペーパーを使用するようになった。)

・自分を含め、家庭の中の男性は無関心な人が多い。子どもを通して、家庭に伝える仕組みを検討できないか。

・若い世代の興味を引くために、何種類かの生ごみ処理機の概要等を PR したらどうか。  
→メーカーが特定されるような PR をすることはできないが、生ごみ処理機自体の説明などをする事は検討したい。

・学校で生ごみ処理機などを実際に使用してもらい、その堆肥を使用し、花や野菜を作ったらどうか。

→学校の給食残渣は、堆肥化センターで堆肥にし、できた堆肥を学校で使用してもらっている。学校へ働きかけをすることはできるが、生ごみ処理機等の使用を学校のカリキュラムとして取り組む事は困難。

## 議題②

(平成 26 年度一般廃棄物処理実施計画の策定について、資料に基づき事務局より説明)

**概要：**一般廃棄物（ごみ処理）基本計画に基づき、平成 26 年度の多治見市における一般廃棄物処理について、量（推定）、場所、収集の方法など、単年度の計画を策定するもの。昨年度と大きな変更点はなく、来年度重点的に取り組むごみ減量策を中心に、ご意見を伺いたい。

**結論：**提案のとおりで確認。市長決裁を経て、告示、4 月から実施。

### 主な意見

・エコカレッジについて、今年度は、夜の開催が多かったので、参加しにくかった。土日でもいいので、昼間の講座を計画してほしい。各コースの応募状況はどうであったか。

→今年度は、3 コースで 5 回連続講座。ジュニアコースと自然環境のコースは、定員（各 20 名）につき締め切り。省エネ・ごみ減量コースは、定員（20 名）に満たなかった。合計で、50 名程度が受講。コースごとのカリキュラム内容により時間を設定しているので、ジュニア以外は夜間と昼間を組み合わせることになった。来年度も引き続き実施していく予定で、現在カリキュラムを作成しているところ。全部の回に出席できなくても申込み可能としたい。

・エコカレッジ以外にお届けセミナーの環境課のメニューは、どういったものがあるのか。  
→最近では、省エネ関係（節電など）が多い。ごみ関係では、老人会などからの要望もある。以前は、学校から、環境全般についての要望もあったが、ここ数年は減少している。

・子ども向けの講座については、子ども会を通じて PR できるので、ぜひ計画してほしい。

・来年度も、施設見学の枠を設定するのであれば、小型家電のピックアップ方式についても見てもらったかどうか。

・草木類の計画については、来年度から新たに取り組むものか。また、堆肥になるまでにどれくらいかかるのか。

→来年度から試験的に取り組むもの。姫地域で年に 2 回実施されている地域清掃で、大量に排出される草木類を山田林業に委託、堆肥化して、出来た堆肥を地域で配布する計画。完全な堆肥になるまでには 1～2 年ぐらいかかるが、途中の段階で配布することも検討したい。

・エコカレッジに施設見学があれば、山田林業の受け入れ可能。

→ぜひ協力をお願いしたい。

・プラスチックの容器包装類、トレイ等の再資源化については、なかなか難しいのではないかと。

→これ以上、分別を増やすと市民への負担も増えるし、集めた容器包装類の資源化の課題が多い。ごみ減量のために、調査研究していくことが必要と認識し、計画に挙げてある。今後、先進事例を調査し、審議会に報告しながら進めていく。

### 議題③

（多治見市ボランティア袋作製について、資料に基づき事務局より報告）

**結論：**環境美化を推進していくうえで、全市的な意識高揚を図ることを目的に、企業・団体等に協賛金を募集し、17 企業・団体（19 口）の協賛をいただいた。平成 26 年度より市民等が公共用地の清掃を行う際に配布する。

#### 主な意見

・協賛金でのボランティア袋作製は、初めての試みか。

→協賛金（寄付）でのボランティア袋の作成は、初めての試み。指定ごみ袋については、広告を募集している。

#### その他

・環境フェアの実施（2/23）、エコカレンダーを配布することについてのお知らせ。

午後 14 時 30 分閉会